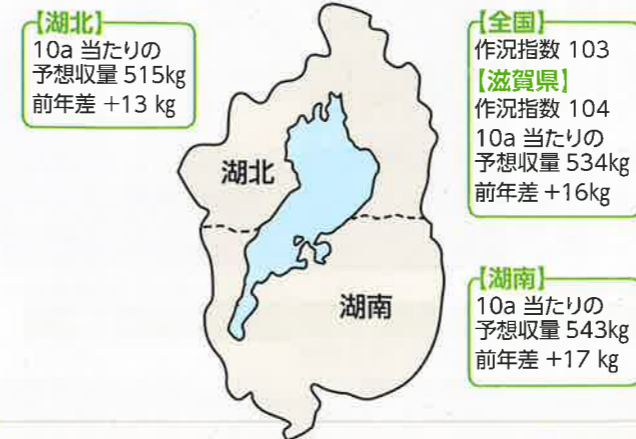


水稲

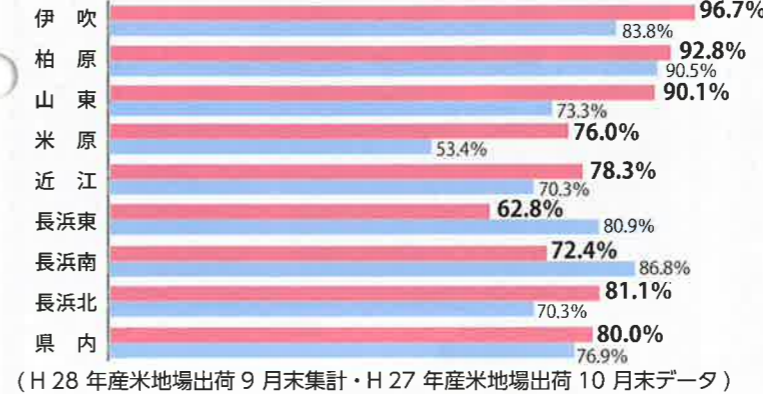
平成28年産米を振り返って

平成28年産米は、1等比率収量とも昨年を上回りました。その要因は次のとおりです。  
 ①6月中旬・下旬の日照時間が平年を下回り、分げつが抑制されたことから、適正な穂数となりました。  
 ②7月中旬以降天候に恵まれ、一穂当たりの籾数がやや多くなったことにより、平米当たりの籾数が増えました。

滋賀県の作況指数(平成28年10月15日現在)

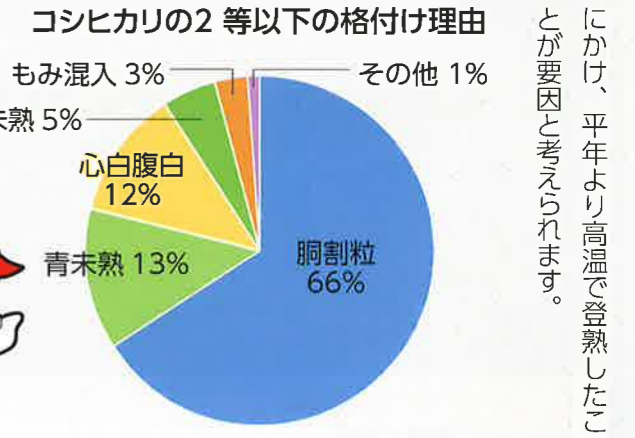


地域別コシヒカリ1等比率



③8月から9月上旬までの日照時間が平年を上回ったことから登熟歩合が高まり、平年よりくず米が少なく収量が高い傾向となりました。

**コシヒカリの1等比率**  
 ①コシヒカリの1等比率は76.5%となりました(H27産米は74.5%)。2等以下の格付理由は、胴割粒・青未熟粒・心白腹白が多く発生し、品質の低下となりました。出穂期から登熟期



①その他の品種の1等比率  
 コシヒカリ以外の主な品種の1等比率は、例年より高い傾向となりました。2等以下の格付理由の中に、もみ混入が原因となるものがありましたので、品質低下防止のため、調製作業にご注意下さい。  
 また、コシヒカリを含め、高品質米の生産には、作期分散と品種分散により、適期作業・適期収穫することが必要です。

野菜

いよいよ寒さも深まってきました。温度格差が大きくなり、体調にも気をつけたい季節です。今月は、本格的な冬を前に、基本的な防寒対策をご紹介します。

栽培特性

- ①秋冬野菜は寒さを必要とする特性がありますが、生育中の著しい低温霜は生長を抑制します。
- ②保温することにより各種野菜の生育が早まり、限られたスペースでの菜園を有効利用することが可能です。
- ③密閉型のトンネルをした場合は、日中に換気することも必要ですが、気温が下がり始める夕方までには再度被覆し、トンネル内の気温が下がり過ぎないようにします。

農業用ビニールを用いた保温対策

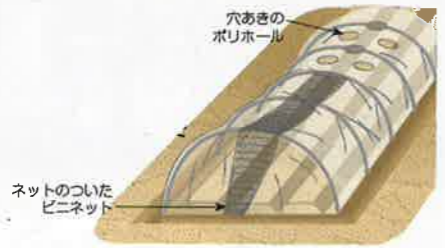
日中の気温が上がるタイミングには裾をめくり上げ、必ず換気をします。温度が低いときは農業用ビニールなどを



掛けてやると、種まきが早くからできます。

穴あき農業用ビニールを用いた保温対策

換気のためではありませんが、穴あき農業用ビニールのため保温効果は劣ります。  
 天井にネットがついた農業用ビニールや、穴あき用ビニールなどの専用フィルムは、自然換気もできるのので保温用として使いやすいです。



寒冷紗を用いた保温対策

通風が良く保温効果は劣りますが、ムシの心配がない方法です。  
 寒冷紗は、育ちがやや遅いですが、露地より生育は早まります。かん水は上から掛けられ、また少し温度が



にかけ、平年より高温で登熟したことが要因と考えられます。

その他の品種の1等比率

品質・収量は気象条件の影響を受けますが、基本技術をしっかりと行うことで、栽培リスクを回避・軽減できます。より詳細な栽培のポイントについては「平成29年用栽培の手引き」に説明しています。

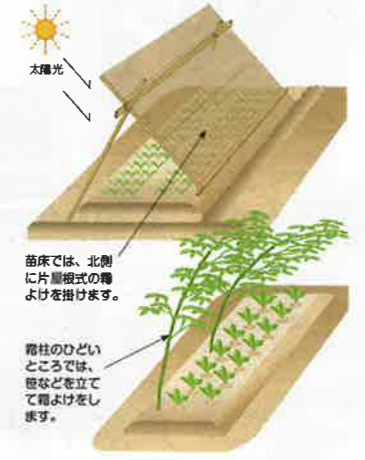
その他品種の1等比率

品種	1等比率	2等以下の主な格付理由
みずかがみ	85.1%	もみ混入、青未熟
キヌヒカリ	86.8%	心白・腹白
秋の詩	94.3%	心白・腹白、胴割
日本晴	80.3%	除青未熟

(H28年産米地場出荷10月末集計)

上がってきてもムシることはありません。

よしず・竹笹を用いた防寒対策



不織布によるベタ掛け防寒対策



※今回、ご紹介した方法が必ずしも寒害・霜害を完全に防ぐというわけではありませんが、生育促進には効果的です。



平成29年産用 新規水稲除草剤【新発売】のご紹介

- ① **アップレZ** 29年産用 特別栽培米指定薬剤  
**【剤型】** 1キログラム剤・フロアブル・ジャンボ  
**【特長】**  
 ●水稲用一発処理除草剤です。  
 ●SU抵抗性雑草(ホタルイ、コナギ、アゼナ等)にも高い効果を発揮します。  
 ●クログワイなどの多年生雑草を長期間強く抑制します。  
 ●高葉齢(3葉期)のノビエにも優れた効果を示します。  
 ●効果の発現が速く、長時間持続します。
- ② **ベンケイ**  
**【剤型】** 1キログラム剤・豆つぶ250・ジャンボ  
**【特長】**  
 ●水稲用初・中期一発処理除草剤です。  
 ●ノビエに対する効果が高く、長期間発生を抑制します。  
 ●2.5葉期までのノビエに優れた効き目を示します。また、多年生雑草に対しても高い効果があります。  
 ●抵抗性のイヌホタルイに優れた効き目を示します。畦畔からの侵入雑草(イボクサやアシカキ)を抑制します。

ご注文は、平成29年産用肥料農薬注文書にてお願いいたします。

